

2022年度 事業報告書

2022年度の我が国経済は、新型コロナの影響も小さくなるとともに、政府の経済対策もあり持ち直している。また、海外からの観光客入国に伴う規制の緩和もあり海外旅行者の増加も経済持ち直しに寄与した。

しかし、2022年2月に発生したロシアによるウクライナ侵攻は依然として継続しており、エネルギー価格を中心に価格高騰が継続している。さらに円安による輸入物価の上昇もあり、物価の上昇が景気回復の足かせとなった。

2022年のLPガス用容器の生産実績は、エネルギー価格の高騰、円安の進行に加えてカーボンニュートラル対応等を要因として原材料である鋼材価格が大幅に上昇したことによる製品価格の値上げ等を要因として大幅に減少し、前年比9.3%減の170万本となり、自動車用容器及びその他ガス用容器を含めた総数も、9.5%減の約177万本になった。

また、バルク貯槽の生産実績も同様に、対前年比8.0%減の14,167基となった。

このような状況下で、当工業会は、2022年度事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 生産、流通に関すること

会員各社から容器及びバルク貯槽の生産・在庫状況を収集し、需要動向の把握に努めた。

(1) 容器総生産実績は、1,768千本（前年同期比90.5%）となった。

内訳は以下のとおり。【2022暦年、カッコ内は前年比】

①10kg以下LPガス用容器	71千本（117.5%）
②10KG超20kg以下	675千本（92.4%）
③20KG超50kg以下	959千本（88.1%）
④50KG超500kg以下	109本（97.3%）
⑤自動車用容器	10千本（110.9%）
⑥その他ガス用容器	53千本（82.4%）

(2) バルク貯槽生産実績は、3トン未満を除いて14,167基（前年同期比92.0%）となった。内訳は以下のとおり。【2022暦年、カッコ内は前年比】

①100kg以下	0基（—%）
②100KG超150kg以下	771基（127.2%）
③150KG超200kg以下	90基（41.9%）
④200KG超300kg以下	4,040基（92.8%）

- ⑤ 300KG 超 500kg 以下 4, 447 基 (96. 9%)
 - ⑥ 500KG 超 1トン未満 4, 819 基 (85. 6%)
 - ⑦ 1トン以上 3トン未満 522 基 (-)
- 注) 1トン以上 3トン未満の生産実績は、2022年から開始

2. 溶接容器の技術向上

- (1) 技術委員会を中心に溶接容器及びバルク貯槽の品質保持・向上に関する検討を行った。
- (2) ISO/TC58 国内委員会に委員を派遣し、ISO 基準の見直し・策定などに協力した。
- (3) 高圧ガス容器規格検討委員会に委員を派遣し、例示基準案作成等に協力した。
- (4) 移動容器規格委員会に委員を派遣し、検査基準の見直し等に協力した。
- (5) 高圧ガス保安協会が容器保安規則例示基準の改正要望取りまとめのために設置した高圧ガス容器専門家検討会に委員を派遣し、報告書作成に協力した。

3. 保安の確保と安定供給対策

- (1) 生産物賠償責任保険の更新
容器を起因とした万一の事故による賠償責任に備え、令和4保険年度（令和4年10月1日～令和5年9月30日）の生産物賠償保険を継続付保した。
- (2) 政府の保安対策等への協力
経済産業省産業構造審議会傘下の高圧ガス小委員会にオブザーバーとして参加し、高圧ガス保安施策の策定・推進に協力した。
- (3) LPガス安全委員会への参画
LPガス安全委員会に会員として参画し、消費者保安体制の強化及び事故防止体制の推進に協力した。
- (4) LPガス容器くず化処理
LPガス容器くず化処理マニフェストの発給依頼のあった認定事業所に対し同マニフェストを提供し、確実なくず化処理に貢献した。
認定事業所における2022年の容器くず化処理本数は741千本（前年同期比83.4%）となった。
- (5) バルク貯槽くず化処理工場認定
新規認定事業者の申請はなく現在24社。

4. その他の事業

(1) 関係官庁、関係機関等からの情報提供

経済産業省等の行政機関及び高圧ガス保安協会をはじめとする関係機関・団体からの依頼・情報提供を受け、会員への周知、各種資料の配布を行う等必要な情報提供に務めた。

(2) 統計等の作成及び情報提供

溶接容器、バルク貯槽の生産統計及び会員名簿等を作成・配布するとともに、工業会ホームページを通じて情報提供を行った。また、利便性の向上を目的として、1トン以上3トン未満のバルク貯槽生産実績を新たに追加した。

(3) 関係団体等との連絡、情報の交換

L Pガス関係団体事務局連絡会、鉄鋼製品団体協会会合に参加し、関係業界相互間の情報交換を行った。

5. 会議の運営状況

(1) 通常総会

2022年5月に第46回通常総会を開催し、2021年度事業報告書案及び収支決算書案等を審議し、議決した。

(2) 理事会

2022年度は6回の理事会を開催し、総会への附議が必要な事業報告書案、収支決算書案、事業計画書案、収支予算書案、について審議し、議決した。また、各委員会の開催報告に基づく検討の結果、必要に応じ業務執行を決定した。

(3) 監査

2023年4月19日（水）に2022年度の収支決算について監査を実施し、監査証明書の提出があった。

(4) 委員会活動

①運営委員会

2023年3月14日（火）に開催し、2023年度の事業計画書案及び収支予算書案について検討を行い、案を作成した。

②技術委員会

2022年度は6回の技術委員会を開催し、溶接容器・バルク貯槽の品質保持を中心とした検討を行ったほか、外部委員会出席委員からの報告を基にした意見交換等を行った。さらに経済産業省が高圧ガス保安協会に委託した容器保安規則の例示基準見直しの検討会に要望を取りまとめ提出するとともに、検討会の議論に参加した、検討会への要望項目及び

最終的な報告書での採択は以下のようになった。

- ・ 当工業会提出の要望項目及び採択結果は以下のようになった。
 - 1) 内容積 150L 以下に適用される最小肉厚の計算式の変更
最終結果：採択
 - 2) 耐圧試験の試験方法について（安全率 3.5 以下の容器の取扱）
最終結果：最悪
 - 3) 耐圧試験でのセンサーの活用
最終結果：検査員の判断で使用が可能となるよう規則改正案を採択
 - 4) 気密試験でのセンサーの活用
最終結果：上記と同様
 - 5) 放射線透過試験方法でのデジタル検出器採用
最終結果：不採択（現状と同程度の精度確保が不明等）
 - 6) 放射線透過試験の一組の計算で同一の年月日を同一の条件に変更
最終結果：不採択（安全性の確認に時間を要するため取り下げ）
- 例年実施している地方開催はコロナ禍により中止となった。

③ 容器処理委員会

2022年度の容器処理委員会は、5月に第97回容器処理委員会を開催し、容器処理の状況、容器処理に関する政策の動向等について意見交換を行った。また、11月に富士工器稲沢工場を訪問してバルク貯槽製造現場の見学等を内容とする地方開催を3年ぶりに実施した。

6. 庶務的事項

(1) 役員の異動

2022年度中の役員の異動はなかった。

(2) 委員長の異動

なし

(3) 会員の状況

	2021.3.31 現在	2022.3.31 現在	2023.3.31 現在
正会員	6	6	6
賛助会員	28	28	28
バルブ関係	3	3	3
容器処理関係	24	24	24
バルク関係	1	1	1
計	34	34	34

(4) 表彰関係

なし

以上